

よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成

～教師のファシリティブな関わりによる係活動の活性化を通して～

南城市立船越小学校教諭 島袋 朋子

I テーマ設定の理由

社会的な背景

子どもたちがこれから生きていかなければならない社会は、変化が激しく、複雑な人間関係の中で新しい未知の課題に試行錯誤しながら対応することが求められる難しい社会である。このような社会をたくましく生きていかなければならない児童にとって、複雑で変化の激しい社会での生き方などについて体験的に学ぶ場が必要である。そのため、学校教育において、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成することを目標とする特別活動の果たす役割は大きい。

学習指導要領から

学級活動について、『小学校学習指導要領解説特別活動編』（以下、「解説特別活動編」と略す）では、「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる」とされ、特別活動の中核を成すものとされている。中でも係活動は、「学級の児童が学級内の仕事を分担処理するために、(中略)、児童の力で学級生活を豊かにすること」をねらいとしており、児童の自主的、実践的な態度の育成に大きな役割を果たすものと言える。

これまでの実践から

しかし、田中氏の提唱する「学級力アンケート」の結果によると、本学級の児童は、自分は学級のために頑張っているという子はほとんどであるが、学級全体に対する意識はほとんどの能力に低下が見られた。とくに「目標設定能力」と「学級評価力」において課題が見られ、「児童が自ら目標を設定し、仲間と創意工夫しながら解決を目指す態度」の育成が課題と考えられる。これまでの指導をふり返ってみると、教師の意図する方へ無理に児童を近づけようとして、児童が自己決定する前に教師が指示してしまうことが多くなり、その結果、児童の意欲を低下させてしまい、その結果、創意工夫したり、活動を継続させるような自主的、実践的な態度を十分に育成することができなかったと考える。そのため、児童が自主的に活動に取組み、活動をする中で創意工夫したり、継続的に取組んだりするような態度を育む、さらなる指導の工夫が必要である。

そこで本研究では、児童が自分の係や活動内容を自己選択・自己決定できるような係活動を設定するとともに、単元を貫いて教師が、児童を信頼し、子どもを主役に活動させるファシリティブな関わりをする。そのことによって、児童が主体的に活動し、活動を改善することができたり、継続して取り組んだりすることができるようになり、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度が育成できるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

児童が自分の係や活動内容を自己選択・自己決定できるような係活動を設定し、教師がファシリティブに関わることによって、児童が主体的に活動し、活動を改善することができたり、継続して取り組んだりする態度が生まれ、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度が育成できるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度について

(1) 「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする」とは

「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする」について、「解説特別活動編」では、「様々な集団活動を通して、自分の所属する集団への所属意識をもち、集団の一員としての自覚をもって生活の向上のために進んで貢献していこうとする社会性の基礎を育成していくこと」と示されている。また、社会性の基礎とは「多様な価値観、性格などをもつ児童が一緒に一つの目標を共同して追求する集団活動において、児童一人一人が自分の役割を受け持ち、協力してその責任を果たすことにより、確かなものとして身に付いていく。従って、このような社会性の基礎を身に付けるためには、児童が互いの個性を認め合う中で、与えられた役割を自覚し、責任を持って仕事を果たす必要があるものであり、このような経験を積み重ねることが大切」とある。

集団の中でよりよい生活や人間関係を築く態度の育成に当たっては、関心・意欲を高め、諸問題の解決に向けて思考・判断を深めるとともに、実践を通して集団活動を行うのに必要な知識や技能を身に付けるよう、学級や学校の集団の育成上の課題や発達段階に応じた課題に即して適切に指導することが重要である。

(2) 「自主的、実践的な態度の育成」とは

自主的、実践的な態度の育成について、「解説特別活動編」では、「特別活動が目指す中心的な目標で、児童自身が意識して努力したり、自ら高めたり、伸ばしたりすることができるようにするなど、自主的、実践的な態度を育てること」とされている。児童は、望ましい集団活動を通して、自分達で決めた目標の達成を目指し、現実には即して実行可能な方法について考えながら着実に遂行する態度の育成が必要である。そのためには、児童による自発的、積極的な取組を通して、一人一人の児童に自分への自信を持たせるようにするとともに、「よさ」を発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度が身に付くよう指導することが大切と考える。

(3) 学級活動、係活動の目標（低学年）

学級活動の目標について「解説特別活動編」では、「学級を単位として、周りの児童と仲良く助け合い、身近な人に親切にし、みんなのために働くなどして学級生活を楽しくすることができる態度を育むこと（中略）進んで生活や学習に取り組もうとする態度の育成を図る活動に重点を置く」とされている。そのため、これらの活動の指導においては、児童の発意、発想から様々な活動が生まれ、学級や学校の生活を向上させようとする活動へと広がっていくよう指導する。また、その過程で、児童一人一人に自主性や社会性、集団の一員としての責任感などについて実践を通して育てていくようにする。指導のめやすとしては、「どのような仕事学級生活に必要なかを発見させることから始め、全員が何らかの係を担当できるようにし、少人数で構成された係で仲よく助け合って活動できるようにすることが大切」とされることから、児童の創意工夫が生かされ、協力して取り組めるような係の活動を増やしていくよう指導する。係活動を通して児童に仲間と活動する喜びを体感させたり、学級会において友達の話をしっかり聞くことの大切さを理解して話し合わせたり、異年齢集団や学級内でのグループでの活動を協力して行う等、望ましい人間関係を築く態度の基礎を身に付けることができるよう指導することが大切と考える。

2 係活動の指導について

(1) 学級や学校の生活づくりと係活動

係活動の指導について、「解説特別活動編」では、「学級や学校での生活を充実、向上させるために、必要とされる学級内の組織づくりや仕事の分担などを、児童自身が見だし、協力していこうとする活動」としている。また、この活動は、学級活動の「(1)学級や学校の生活づくり」に位置づけられ、「これらの組織が機能し、活発な活動が展開されることにより、学級生活の充実と向上を図ることができる」とされている。そこで本研究では、学級生活の充実と向上のために児童自らが気

付き、関心を持ったことを活動内容に位置づけるとともに、児童の能力にふさわしく、児童が共同して、具体的に解決の方法を見だし、実践できるものを取り上げることとする。そうすることで、児童の発意、発想から様々な活動が生まれ、学級や学校生活を向上させようとする活動にすることができる。さらに、児童一人一人に自主性や社会性、集団の一員としての責任感などを育て、望ましい人間関係を築こうとする態度を育成したい。

(2) 学級活動の活動形態と係活動

学級活動の指導の効果を高めるため、「解説特別活動編」では、『(1)学級や学校の生活づくり』及び『(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全』の内容の特質を踏まえ、(中略)学級活動の形態に即して効果的に活動が展開できるようにすることが大切」と述べられている。活動形態として、「話し合い活動」、「係活動」、「集会活動」の3つが挙げられているが、中でも、係活動については、「学級の児童が学級内の仕事を分担処理するために、自分たちで話し合っって係の組織をつくり、全員でいくつかの係に分かれて自主的に行う活動であり、児童の力で学級生活を豊かにすることをねらいとしている」とされている。このことから、児童の自主的、実践的な態度の育成に、係活動は重要な役割を担っており、児童が十分に創意工夫して計画し活動できるように指導することが大切である。

(3) 発達段階を考慮した係活動の指導

低学年における学級活動の指導について、「解説特別活動編」では、「望ましい集団活動や体験活動を通して、児童が仲良く助け合い学級生活を楽しくする」とされている。また、発達の課題として、小1プロブレムなど集団適応の課題も指摘されている。そのため実際の指導に当たっては、学校生活を楽しんだり、集団の生活や学習ができるようにしたりするような内容に重点を置いた指導計画を作成することが大切と考える。低学年の児童においては、係活動への活動意欲の個人差が大きいため発達段階に応じた指導や児童の状況に応じた指導が求められる。「解説特別活動編」を基に、下の表1に「指導のめやす」をまとめた。教師は、これを踏まえて適切な指導を行う。

表1 発達の段階に即した指導のめやす

発達段階	低学年	中学年	高学年
指導のめやす	<ul style="list-style-type: none"> ・当番的な活動から創意工夫できる活動へ ・少人数で、仲よく助け合っって ・学級生活を楽しくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を整理統合し創意工夫を生かす ・協力し合っって楽しい学級に ・積極的に取組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さを生かせる係 ・継続的に取組む ・創意工夫できる活動に重点化 ・信頼し支え合っって ・楽しく豊かな学級や学校づくり

さらに、低学年の指導の留意点について、「解説特別活動編」では、「どのような仕事学級生活に必要なを発見させることから始まる。(中略)全員が何らかの係を担当できるようにし、少人数で構成された係で仲よく助け合っって活動できるようにすることが大切である」とされている。そのため、低学年でも、経験を積み重ねるにしたがって、児童の創意工夫が生かされ、協力して取り組めるような係の活動を増やしていくことが必要である。本研究では、少人数で構成された係で問題の解決方法について自分たちで考え、正しい方法や自分たちに合った方法を選んで、協力して学級生活を楽しくすることができるよう指導する。

(4) 係活動の構成

本研究で取り組む係活動の指導の構造を図1に示した。児童が主体的に活動し、自らの力で活動を改善したり、継続して取り組んだりすることができるようにするために、係活動の指導において一貫して、教師と児童、児童相互が信頼をベースにしたファシリティブな関係を築き、子どもを主役とし、主体的に自分達の活動をつくり出していけるよう指導する。教師は、適切な場面で児童にファシリティブに関わることによって、児童が活動を創意工夫したり、継続化、日常化できるような態度を培う。具体的には、教師と児童が、目標に向かって皆で支え合っって活動をつくり出そうと

する学級の「支持的な風土づくり」から始める。それを基に、児童が自己決定、選択できるような係活動を設定し、仲よく助け合いながら学級生活の充実や向上に向けた取り組みを展開する。教師は児童相互の「よさ見つけカード」や「自己チェック表」を提示し、活動を誉め合ったり、認め合ったりするようなファシリティブな関わりを行う。岩瀬(2011)は、ファシリティブな学級について、「足を踏み入れた途端、ホッとする。友達と楽しく遊べる。学び合える。どんなトラブルも解決できる『信頼ベース』の学級づくりが大切。それは、児童が持つ周囲とのコミュニケーションの中で育つ」と述べている。児童を励まし、自信を持たせ、やる気を生み出す関わりが児童の係活動の活性化にとって有効と考える。その結果、児童の「心の体力」が温められ、自己肯定感を生み、新しい活動に挑戦したり、主体的に活動に取り組み、創意工夫し、継続したりする態度が育まれると考える。また、仲良く助け合って活動することで、仲間を受け入れ共感すること、信頼し合い協働して目標を達成することができ、活動がうまくいかなくとも仲間で励まし合い、さらに結びつきを深めていくような態度が育成されると考える。杉田(2012年)は、児童は、このような活動から「多様な他者と折り合い、自己を生かす社会的知識・技能と思考力・判断力・表現力の獲得」する力を身に付けていくと述べている。その結果、児童のよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度が育成されると考える。

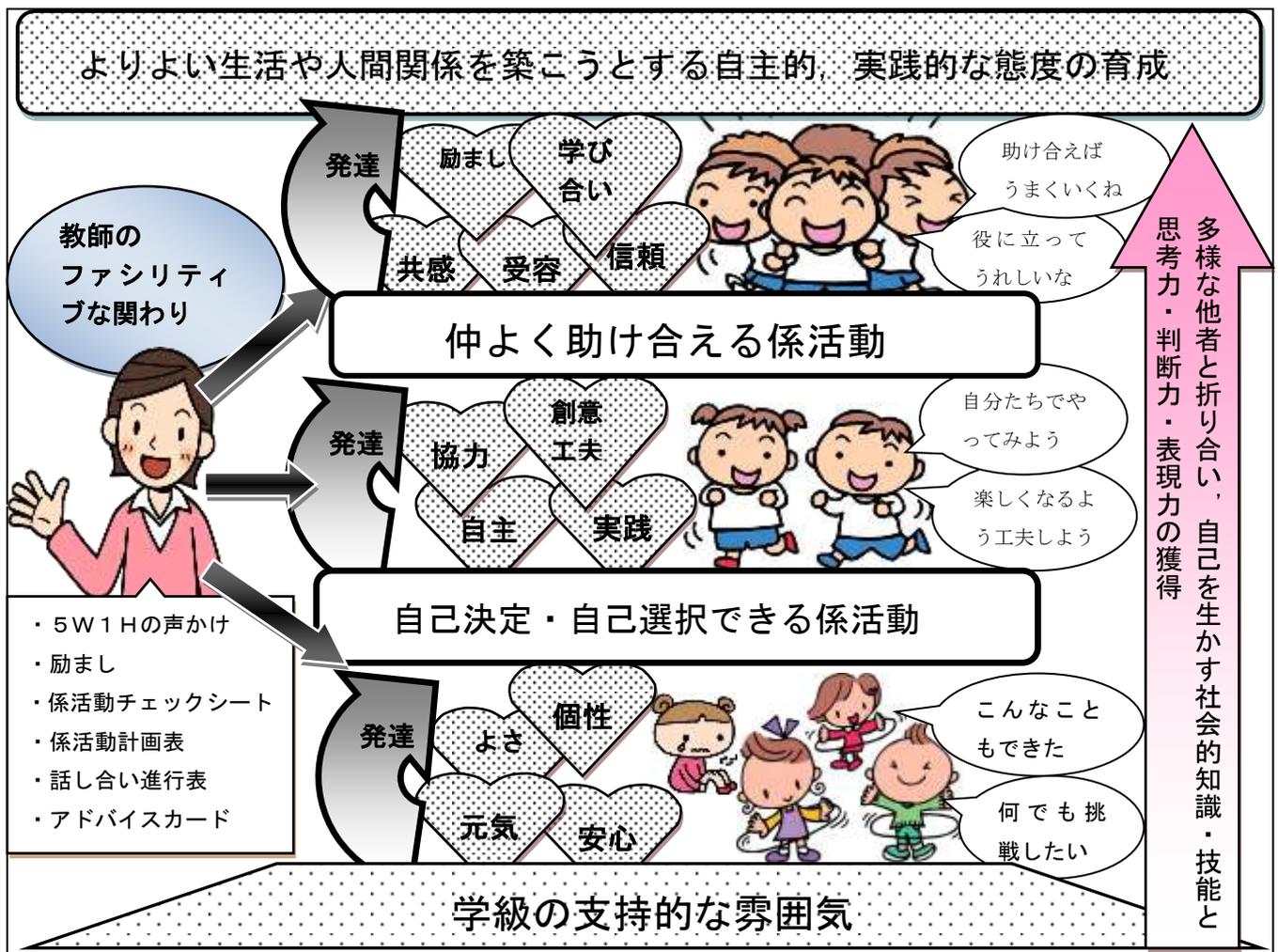


図1 係活動の指導の構想図

(5) 係活動の組織

係活動を効果的に進めるためには、活動を児童が自主的に運営できるよう、編成する必要がある。このことについて、「解説特別活動編」では、「係活動は日常の学級生活に密接にかかわる役割分担であり、やらなければならない当番活動とは異なり、児童の必要感から設置されるものである」と

されている。そのため、係の種類は児童による話し合いを通して児童の自主性を生かして構成させることが大切である。また、その内容は教師の支援的な関わりの下、児童が設定し、活動する中で児童の創意工夫によって改善できるようにすることが重要と考える。これらを踏まえて、本研究では、係活動の指導の方針や手立てについて表2の通り構想する。

表2 係活動の編成表

	内 容
目的	自己選択・自己決定できるような係活動を設定し、児童が自分の「よさ」を発揮し、主体的に活動できるようにする。その中で教師は、ファシリティブに関わることによって、児童が主体的に活動し、活動を改善することができたり、継続して取り組む態度が生まれ、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度が育成できるようにする。
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に自己選択・自己決定できるようにするため、係の種類や数は弾力的に考え、児童の思いや願いから編成できるようにする。 ・児童が、係活動に創意工夫を加えることができるようにするため、活動する中で話し合いの場を持たせ、活動内容を選んだり改善したりできるようにする。 ・係活動の継続化・日常化を図るため、教師は、活動の成果を奨励し、計画的に係活動の場面を設定する。また、児童に活動計画を立てさせ、改善のための話し合いの場を設ける。
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に、係を決定する場面、仕事内容を話し合う場面、創意工夫したり改善したり、活動の振り返りをする場面など話し合いの場を計画的に設定する。その中で、全員が参加し、思いや願いを反映できるようにするため、小集団による話し合いを充実させる。 ・教師は児童を励まし、共に考え、活動することによって、係活動を促進させるような関わりをする。 ・問題が生じた場合は、教師は間違いが児童にとって尊い学びの機会となるよう、児童の思考に寄り添いながら自分自身の力で結論に至る道筋を伴走するよう指導する。
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・係の数については、仲間と仲よく助け合い活動できるようにするため、30名前後の児童数であれば、10前後の係を編成するものとし、1つの係は2名以上で構成させる。 ・係の人員構成については、学級全体で仲よく取組めるよう、男女混成を奨励する。係によっては男女別が好都合な係もあるため、話し合いで児童に決めさせる。児童間のコミュニケーションを活発にするため、全員が、学期に1つ以上の係を担当するものとし、一人が2つの係を担当しても良いものとする。その場合、主とする係を置き、もう一方の係を手伝うことにする。係の交代や移動について、途中で希望があれば、児童で話し合っ決めてさせる。 ・活動場所は、主に教室や教室周辺の作業スペースを拠点とする。そうすることで、皆が活動の様子を見てアドバイスできたり、よりよく助け合ったりする態度が育まれると考える。教室後方には係活動コーナーを設置し、必要な道具や消耗品を置き、話し合いや係の活動がスムーズにできるようにする。活動の時間については、主に、休み時間や放課後を利用して活動させる。

(6) 話し合い活動の促進について

児童の自主性を生かすためには、話し合い活動の充実が大切と考える。そこで、話し合いを促進させる工夫として、以下のような指導を工夫する。

① 話し合いの雰囲気づくり、意欲付け

- ・授業はじめにアイスブレイキングを取り入れ、話し合いも雰囲気づくりをする。
- ・座席の配置を工夫し、皆が顔を合わせて楽しく話合えるようにする。
- ・「提案理由」は児童と話し合っ、話し合いの目的が皆に伝わるよう作成させる。
- ・教師が資料等を可視化し、児童に課題を把握させ、教師の励ましによって児童の解決への意欲を高め、解決への見通しが立てられるよう支援する。

② 全員参加型の話し合いの工夫

- ・司会や記録係にシナリオを提示し、話し合い活動の流れを理解させる。

- ・付箋紙やホワイトボードを活用した少人数での話し合いを取り入れる。
- ・事前に各係の活動内容を提示しておき、児童はそれを見て意見を準備して話し合わせる。

③ ワークシートや学習カードの工夫

- ・以下のようなワークシートを活用し、児童の話し合いが活性化され、実践につながるようにする。

係活動チェックカード

児童に、日々の取組を振り返りをさせ、内省し活動を改善できるようにしたり、自分の成長を確認できるようにするため、図2のような「係活動チェックシート」を作成した。また、教師は日々児童の活動の確認ができ、「よさ」を見つけ誉めたりし、児童の自信ややる気が引き出されるようにする。

児童が毎日1行ずつ活動したことを書き、今日一日の活動を見直したり、明日からの計画を立てる。

☆係活動どう助け合いカード☆ 2年2組 名前 ひくくゆゆう

月日	今日やったこと	やってみたいこと	今日褒めたいこと	今後褒めたいこと
12/3	キラリさんのカードをまひかきました。		おいし(りゆう)	仲良し(ゆゆう)
12/4	たいいくのいかんボールをどろりかいた。けろのちか"んは"りました。		おいし(りゆう)	仲良し(ゆゆう)
12/6	あしたはたいいくのいかんボールをどろりかいた。まひかきました。		おいし(りゆう)	仲良し(ゆゆう)
12/7	あしたはたいいくのいかんボールをどろりかいた。		おいし(りゆう)	仲良し(ゆゆう)

色を塗り、活動を振り返らせ、問題があればすぐに教師が対応する。

図2 係活動チェックシート

係活動計画表の作成

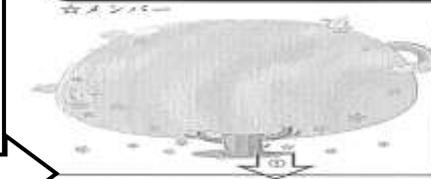
図3に示すような係活動計画表を作成し、児童が自分たちで主体的に話し合い、活動内容を自己選択・自己決定していけるようにした。児童は、話し合っ、活動をつくり出し、活動がうまくいかない場合は、自分たちで計画表を改善できるようにスペースを広くした。話し合いの結果を、他の係の児童にも提示することによって、他の係からの意見が交換できるようにした。

活動内容
児童の思いや願いが反映される

☆係活動計画表☆

係

☆メンバー



☆めあて

☆活動したいこと

☆活動ぶたん (だれが何をするか)

☆そのために (いつ・どうするか)

活動目標
全員で決める。
月1度、見直す

活動時間と準備するもの等
具体的な内容を記入する

役割分担
誰が・どんなことをするか

図3 係活動計画表

めあてカードの作成

児童に、係活動の実践を意識できるように、図4に示すような「係活動めあてカード」を作成し提示した。係の活動計画の通り、日々の生活で児童が責任を持ち、主体的に活動できると考えた。また、目標は月毎に改善できるようにスペースを広くした。

もくひょう

めあて

2年組 名前

各月の具体的な目標を立てさせ、下に書き足していけるようにする。

図4 係活動めあてカード

3 教師のファシリティブな関わりとは

上のような係活動を進めるに当たっては、児童の活動を促進するような教師の関わりが大切である。そのため、「ファシリテーション」の考えを係活動の指導に取り入れる。

(1) ファシリテーションとは

「ファシリテーション」について、広辞苑では「容易にすること、簡易化、助成、助長、を意味する facilitate から転じて、対立しがちで合意形成や相互理解が妨げられがちな会議などの効果的・効率的運営をすること」と定義づけられ、近年、会議など様々な場で取り入れられている。

長尾(2010)は、「一般的に呼ばれているファシリテーションの技術に、教育分野に必要なエッセンスを盛り込んだものがクラスファシリテーション」と述べ、「支援的、促進的、利他的な他者に対する働きかけ」としている。また、『利他』とは『他人の幸福を願うこと』とし、「相手と利他的にかかわるけれども、自分も幸せになることが必要で、この状態のことを『Happy-Happy の状態』と呼んでいる。それは、教師と子ども、子ども同士の信頼関係の上に成り立つと考える。このように支援的に児童と関わる教師を、ファシリティブティーチャーと呼ばれている。ファシリティブティーチャーとしての関わりを係活動の指導に取り入れ、児童が主体的に活動し、創意工夫し、継続化・日常化できるようにしたい。

(2) 教師のファシリティブな関わりについて

岩瀬(2011)は、ファシリティブティーチャーとしての教師の基本的な関わり方について「子ども達一人ひとりがクラスへの参加感を持てるようにすること」と「クラスがチームとなって共にゴールを目指すこと」を基本とする「信頼をベースにした学級づくり」を大切にしている。この場合、教師主導で「教え込む」のではなく「共に歩む」という姿勢で関わる必要があるとしている。図5はその教師と児童との関係性を表したものである。た、教師は児童の「心の体力を温めること」が大切と述べ、図7に示すように、心の体力を温めることによって、児童が自信を持ち意欲的に活動できるとしている。図6に、ファシリティブティーチャーとしての教師像をまとめた。子どもを主役主役にした活動を展開し、教師は見守りながら児童に必要な創意工夫の力を身に付けさせる。岩瀬の「教師の関わりスキル10か条」を表3に表した。本研究では、このような教師の関わりを大切にしながら児童が主体的に活動でき、創意工夫し、活動を継続化できるような指導を追及する。

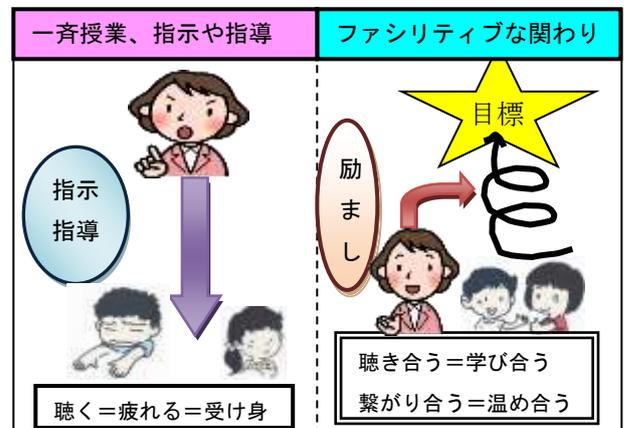


図5 教師と児童との関係性

ファシリティブティーチャーの姿

- ・ 子供を主役にする先生
- ・ どうしたいか子どもに聞くことのできる先生
- ・ 沈黙を待てる先生
- ・ 子どものために（利他的に）叱る先生
- ・ 指導のタイミングを逃さない先生

図6 ファシリティブな教師像



図7 児童の心の体力を温める

表3 教師の関わり10ヶ条

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1条 | クラスはチーム こうなりたいというゴールを共有 |
| 第2条 | クラスや学びのオーナーは、メンバー 先生も一員 |
| 第3条 | 主語は僕たち やらせるではなく、一緒にやろう！ |
| 第4条 | 心の体力を温める 学び合うプロセスを高める |
| 第5条 | 温める言葉：冷やす言葉＝4：1のバランス |
| 第6条 | 好意的な態度で「相手にとって」が肝心 |
| 第7条 | 体験的な学びを大切にスモールステップで |
| 第8条 | 自己選択・自己決定させ、質問の技で寄り添う |
| 第9条 | 失敗もする 感情に流される それを糧にします |
| 第10条 | 一人で頑張りすぎない 仕事を楽しむ。学び続ける |

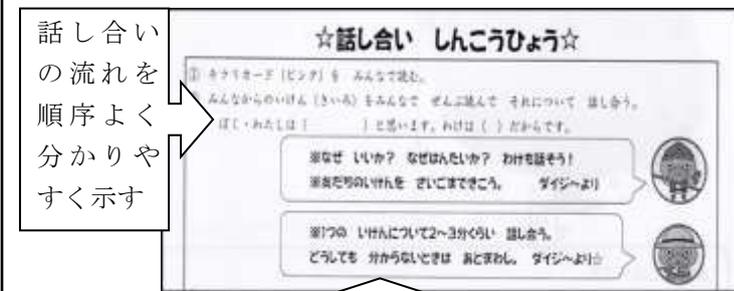
(3) ファシリティブティーチャーとしての教師の手法

① 5W1Hの関わり

話し合いの際、教師が5W1Hの声かけ（いつ、だれと、どこで、何を、どうする等）を児童に投げかけすることで話し合いを深めさせ、実践に近づけるようにする。

②「話し合い進行表」と「話し合い盛り上げカード」の作成

話し合いの進め方を進行表に示し、児童が進んで話し合いを進めていけるようにする。



話し合いの
流れを
順序よく
分かりやす
く示す

☆話し合い しんこうひょう☆

① きうりカード（ピンタ）を みんなで読む。
みんなからのいけい（きい）をみんなで ぜんぶ読んで それについて 話し合う。
ばい・あはしほし」 と話し合います。わけは（ ）だからです。

※なぜ いいか？ なぜなんですか？ わけを話そう！
※後打ちのしけんを さいにまでせこう。 ダイジへよ！

※1つの いけんについて2〜3分くらい 話し合おう。
どうしても 分からないときは 高にまわし。 ダイジへよ！

児童のつまづきを予想し、ナンジー（南城市のマスコット）が解説して、話し合いが進むようにする。

図8 話し合い進行表



話し合いの盛り上げカード

あいづちをうつ

くわしくききたい

聞きかえす

かんどうをつたえる

話し手側の意見を尊重する上手な聞き手を育てるため、聞き手の合いづちの方法等を示し、話し手の技が高まり、話し合いが活性化できるようにする。

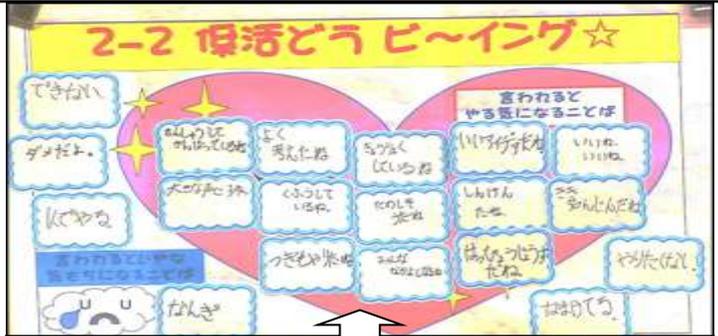
図9 話し合い盛り上げカード

③ 「よさ見つけ、アドバイスカード」と「ビーイング」の作成



活動途中で、他の係活動の「よさ」や「アドバイスしたいこと」を児童同士が交換できるようカードを作成した。そうすることで児童の活動に対するやる気を高めたり、創意工夫したりできるようにする。

図10 「よさ・アドバイスカード」



2-2 係活動どうビーイング☆

話し合ったことを、記録しておいたり、後に思い出せるように、話し合いの内容をまとめる手法の1つ。話し合いで決められた目標を活動に入る前に、整理し共有化する事ができ、自分たちの気づきを広げたり、言葉の良さに気付くこともできる。

図11 係活動ビーイング

IV 授業実践

1 題材名 「みんなハッピー☆係活動大作戦」

2 指導観

これまでの係活動では、「自分の好きなことや得意なことで、学級のためになる活動」を目指して展開してきたので、本学級の係活動では、さらに発展させて、「クラスがより仲良く助け合える活動」や「児童が自分のよさを生かした活動」を協働して行い、児童がよりよい生活や学級をつくることをねらいとしている。まず、児童の発想をもとに、児童に自己決定・自己選択させ、2〜4名で係を編成した。そうすることで、より児童の創意工夫が生かされる活動へと発展できるものと考えた。

活動途中には、さまざまな課題が見つかったり、問題も起こるが、その際、教師のファシリティブな関わりを通して、児童によりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育むことができるであろうと考える。

3 指導計画

	月日	活動内容	ねらい	学級力づくりの道筋
事前指導	9/3	「2学期の係を決めよう」 ・全体で係を共有し合おう	○クラスが楽しくなる係活動を児童が考え、全体で話し合い決定することができる。	係活動と当番活動の違いを知り、より良い生活の為の活動を考える。
	11/8	「係を見直そう!!」 ・学級のためになる係を決めよう	○これまでの活動から課題点をあげ、その解決方法を考える事ができる。	◇学級の為になる活動かを全体で取り上げ、話し合った後、活動を再スタートさせる(班内の人間関係の醸成)
	11/19	「係活動スタート大作戦」 ・活動計画を立てよう	○学級が楽しくなるような活動について考え具体的な計画を立てる事ができる。	学級の為になる活動を取り上げ、役割を分担し、活動を活性化させる(所属意識・役割意識)
	11/26	「係活動にここ大作戦」 ・もっと良い活動を計画しよう	○これまでの活動をふり返り、活動内容や取り組みの方法を見直すことができる。	◇個々の良さ、各グループの良さを知り、それを生かした活動計画を練り直し活動する。(自己肯定感・存在感)
	12/10	「係活動パワーアップ大作戦」・活動を見直そう	○各係の頑張りやよさを伝え合い活動の追加・精選をすることができる。	楽しく活動する中で、自他の良さを知り今後の活動が充実するよう計画する。
	12/20	「2学期の係活動を振り返ろう」 ・活動を振り返ろう	○みんなで頑張ったことを認め合い、次学期の活動への目標を持つ事ができる。	学級全体で、個々の頑張り認め合う楽しい雰囲気作りができ、その後の活動をより良くする。
	1/7	「係活動にここ大作戦Ⅱ」 ・学級に必要な係を考えよう	○2学期の反省を生かし、「皆に役に立つ係」を決める。必要と考えた係を全体で意見交換する事ができる。	学級のためという意識を持って、より良い意見を話し合う。考えの持てない児童には、カード等で支援する。
	1/8	「係活動スタートアップ大作戦Ⅱ」 ・3年生の係活動に学ぼう	○3年生の係活動の取組みについてインタビューし自分たちの計画を見直し、学級全体で係活動の目標を確認しスタートする事ができる。	3年生の取組みから、工夫点や良い点見つけ出し、自分たちの活動に生かせるようなひとつになるような、具体的な目標を掴ませる。
検証	1/11 1/15	「係活動チェンジアップ大作戦」(★本時) ・係活動の計画を見直そう	○各係の計画表を発表し、良さやアドバイスを伝え合い、創意工夫し係活動の計画を見直すことができる。	活動から良さをを見つけ合い、これまでの活動から良さをふやし、改善点を見つけ、より良くする方法を考える。
	2/18	「3年生へステップアップ大作戦」・学級のために活動しよう	○これまでの活動を振り返り、児童が課題と考える内容を出し合い、解決策について考えることができる。	自分たちの生活の中から、みんながより楽しく・仲良くなるよう、変えていかねばならない点を話し合い活動を工夫する
事後指導	3/11	もっと仲良くなる活動をしよう	○1年間の活動について、クラスが仲良くなったこと等について振り返り、次年度へ期待を持つ事ができる。	3年生に近づくための課題を自ら意識して、より良いクラスにするための方法をふり返る。日々の生活で自ら実践する。



4 評価基準

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
B 規 準	学級の身の回りの問題に関心を持ち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするための話し合いや自己の役割や集団としてのより良い方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。
方 法	行動観察・発言成長ノート、カード、よさ見つけ・提案カードの内容	行動観察・発言内容、成長ノート、カード、計画表や付箋紙の記述	行動観察・成長ノート、計画表や付箋紙の記述内容

V 指導の実際

1 検証授業の実際

- (1) 議題名 「クラスのためになる係の計画を見直そう」
- (2) 本時の授業仮説 児童が自己決定・自己選択できるような係活動で、教師がファシリティブに関わることで、児童の活動や話し合いが活性化され、自主的・実践的な態度が育まれるであろう。
- (3) 本時の展開

	活 動 内 容	教師のファシリティブな関わりに関する主な発言記録
導入 5分	<p>1, 活動内容の確認</p>  <p>係活動の目標を示したビーイング</p>	<p>T: これまでの取り組みの様子を可視化し、本時の話し合いのねらいを分かりやすく提示し、話し合いの意図や方向性を明確化した。</p> <p>S: ああ、こんな活動もあったね。</p> <p>T: みんな、嬉しそうにしているね。</p> <p>S: うん、クラスが楽しくて笑顔がふえたね。</p> <p>S: でも、活動できない日も多かったね。</p> <p>T: じゃあ、次はどんな活動にしたい？</p> <p>T: じゃ「ビーイング」でふり返ってみようね。前に話し合ったことは何だったかな。</p> <p>S: そうだあ、みんなが楽しめるように仕事を分担したりして、助けあうんだったね。 取組みを可視化し課題意識を持たせる</p> 
展開 35分	<p>2, 話し合いの見通し</p>  <p>係での話し合いの様子</p>	<p>T: 「話し合い進行表」を配布し、それに沿って話し合いが進められるよう支援した。</p> <p>S: この進行表の通りに話し合えばいいんだね。誰からだっけ？</p> <p>T: ～見守る～</p> <p>S: 先生、アドバイスが届いたけど、これはもう終わってしまっているよ。</p> <p>S: たくさんアドバイスカードがあるけど、全部話し合って解決するの。</p> <p>T: いくつなら、できそう？まず先に、どれなら解決できそうかな？</p>
	<p>3, 話し合い、自分たちの計画の課題をつかむ</p>  <p>進行表を読む様子</p>	<p>T: 「話し合い進行表」と「仲間からのアドバイスが書かれた付箋紙」を児童に持たせ、教師は、進行表の使い方を説明したり、5W1Hの声かけをしたりして、児童の話し合いが促進されるよう支援した。</p> <p>S: おれたちの係の良いところが書かれているよ～。</p> <p>でも、困っている人もいるみたいだよ。どうしてだろう。先生、これ、どういうこと？</p> <p>T: どれどれ、ふんふん。皆さんがやっていることが仲間を喜ばせる活動になっているかな？</p> <p>S: ああ！よく考えるとそうじゃないのかも。じゃ、みんなからのアドバイスを見て、計画を見直そう。 5W1Hで関わる様子</p> 
	<p>4, 計画を見直す</p>  <p>計画を付け加える様子</p>	<p>T: 「係活動計画表」を書き込ませ、活動がより工夫されたり、付け足されたりできるよう支援した。</p> <p>S: じゃ、これはこうしようか。先生、新しく決まったことは、どこに書けばいいの？</p> <p>T: どこに書けば、次に使うときに便利かな。</p> <p>S: ここだ、こうして見えるところに書いて、みんなが忘れないようにしておこう。</p> <p>T: すばらしい。いいアイデアだね。</p>

<p>5, 各係の計画の発表と意見交換</p>  <p>進行役をする司会グループの様子</p>	<p>T : 教師は児童の発表を見守り, 意見を認めつつ, 他の係を促して意見交換させる中で, 活動計画がより明確に伝わるよう支援した。</p> <p>S1 : 私たちの係に, みんなが活動を教えてくれて有り難うございました。</p> <p>S1 : 私たちは, 季節によって飾り付けを変えます。</p> <p>S2 : どこに, どんな, 飾り付けをするんですか。</p> <p>S1 : ん〜〜。</p> <p>T : どこなら, みんなが喜ぶかな。</p> <p>S1 : そうだ, 入口とか見えるところに付けます。</p> <p>春夏秋冬の季節に合った飾りを付けます。</p> <p>T : 説明が, まだよく分からない人はいますか。</p>  <p>計画を発表し交流する様子</p>
<p>6, 振り返りと今後の活動目標の確認</p>  <p>目指す児童の姿を図式化して説明する様子</p>	<p>T : 今日の学習をふり返り, 児童の「よさ」を見つけて誉め, 今後の活動に向けての目標をめあてカードに書かせて確認した。</p> <p>T : 今日の, 話し合いでは, 全員が真剣に係活動について考えていましたね。素晴らしいです。誰かが言うてくれていましたが, 皆さんが真剣になると, これから, 係活動でもっとクラスが仲よく楽しくできそうですね。先生も期待しています。今日, 頑張った司会グループさんに拍手をして終わらしましょう。</p> <p>S : 明日からの係活動が楽しみだな。</p>  <p>教師の呼びかけに新たな目標が立てられ 挙手する児童の様子</p>

2 教師のファシリティブな関わりの実際

(1) 係活動計画表を用いた話し合いの活性化

- ・ 計画表に, 「活動目標・活動内容・役割分担・必要なもの」を詳しく書くことで, 児童は, より具体的なイメージが湧き, 実践に繋げることができた。
- ・ 自分たちの計画を皆に提示でき, それについての「よさ」や「アドバイス」を交換できた。
- ・ 活動の順序がうまく整理されたり, 計画が途中で変更されてもすぐに軌道修正できた。

係活動計画表

Aたん生日(たん生日をいかり)係

☆メンバー

りょうりけ
けいた
そうし

☆めあて
みんなのたん生日を大せいにしよう。

☆活動したいこと
みんなのたん生日を大せいにしよう!!

☆活動ぶんだん
(何をたれがやるか)

プレゼントを作る(せう)

は, ズ(かみ)

の(を)をい(せう)

☆そのために(いつ, どうに)

プレゼントの(を)を
を(を)する。

の(を)プレゼントを作る。

☆何の(を)プレゼントを
作るんですか?

疑問やアドバイスが書き込まれたカード

よさやアドバイスカード

おめでとうカード

Bたん生日係さん
こんなことしてるのは
初めて!!

11/10

Bたん生日係さん
おいわいとかかん
ぱいをやる, てん
い!!

11/10

Bたん生日係さん
11/10のたん生日
の火をい(あ)なん

たん生日係さん
プレゼントを作る, て
たい!!

11/10

Bたん生日係さん
かんぱいをする, て
い!!

11/10

たん生日係さん
11/10

よさが書き込まれたカードが届く

図 12 良さ・アドバイスカードの交換

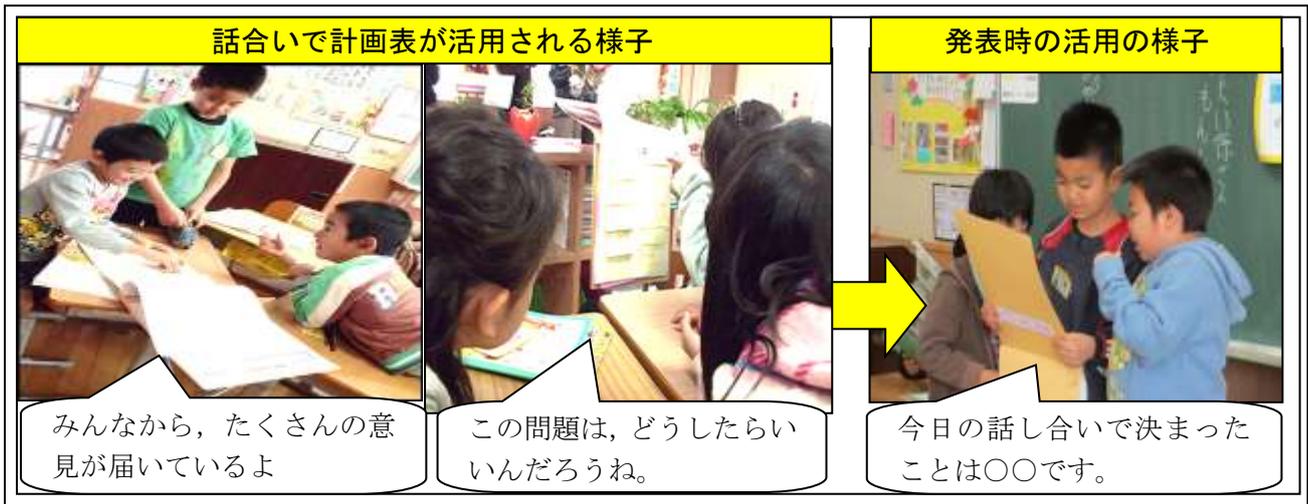


図 13 係活動計画表の活用の様子

(3) 「話し合い進行表」の活用

話し合いがムーズに進められるように「話し合い進行表」を作成したが、発達段階に合わせた進行表の工夫が必要。低学年では始めに、黒板に「話し合いの流れ」を提示し話し合わせ、気になる留意点等は、話し合い途中で教師がその場で共通理解しながら進めると良いと考える。話し合いに集中すると、詳しく資料等を読んだり低学年には難しいため、進行表の活用までには至らなかった。

(4) 「活動チェックシート」と「係のめあて」の掲示と意識化

児童に、日々の活動を書かせることで一日の自分の成長の振り返りができ、活動を見直すことができた。また、教師は一人一人の児童の活動状況や「よさ」を確認でき、対応の仕方を吟味したり、「よさ」を誉めたり、励ましたりすることができた。また、チーム内のトラブルや協力体制が把握でき、指導に生かすことができた。一週間の振り返りを行うことで、活動の足跡や教師の励ましが記録に残され、児童の自信につながった。また、個人の「めあてカード」を腰かけに提示し常に意識させることで、主体的な活動を促進できた。

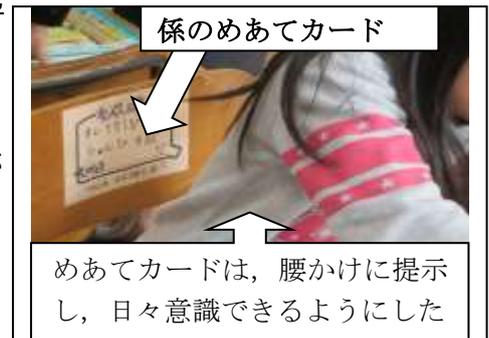


図 14 「めあてカード」活用の様子

(5) 「よさ見つけカード」や「アドバイスカード」の交換

係活動の「よさ」を見つけ交換し合うことで、児童間のよりよ人間関係を築き、自分では気付かなかったよさにも気付いたり、自信を持って活動できるようになった。また、学級全体が温かい雰囲気になれ、活動に消極的な児童が次第に活動に積極的に参加するようになった。男女間での交流が次第に増え、男女で仲良く活動する機会が増えた。



図 15 授業後カードを記入する様子



図 16 係活動ビーイング

(6) 「ビーイング」の活用

各係で話合った内容を2つに分類整理し、まとめると活動の方向性や考えが整理された。これを用いて、係活動のルールを共有化することができた。用い方は、活動前に提示し見通しを持たせたり、活動途中で軌道修正する場面に用いる等、全体での共有化が図られた。

VI 仮説の検証

1 児童が自己決定・選択できるような係活動は、児童の自主的、実践的な態度に有効であったか。

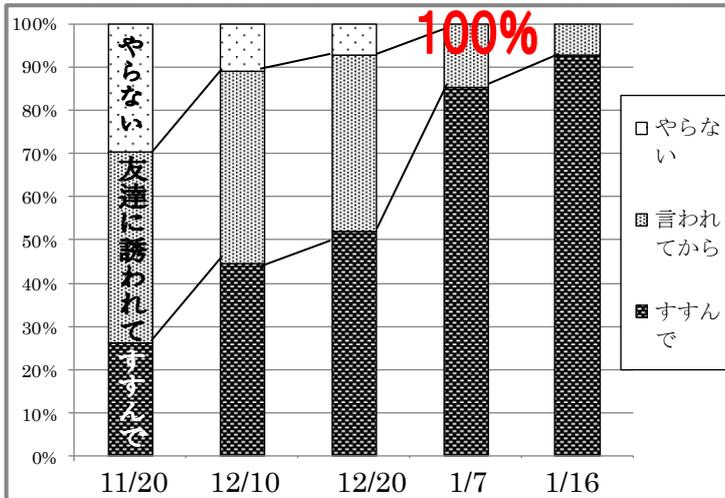


図 17 係活動の取組状況の推移

左のグラフは、活動を進んで行ったかどうかを示したものである。(担任のチェックによる) 活動当初に比べ、「自分から進んで・友達と活動した」という児童が次第に増え、1/7には全員が活動できている。授業後には、ほとんどの児童が進んで活動するようになった。理由として、活動を忘れたり、計画が立てられない子が、他の係の活動を見て、活動する時間を自分たちで工夫して作るようになったと考える。

次に、個人の変容について、児童が授業後に綴った、感想ノートの記述から読み取る。

表 7 児童の感想より抜粋 (S児「虫みつけ係からカメ係へ」)

はじめ (11月)	(12月)	3学期スタート(1月)	自己評価カードの感想 (1月)

表 8 児童の感想より抜粋 (R児「うらない係」)

はじめ (11月)	(12月)	3学期スタート (1月)	自己評価カードの感想 (1月)

当初「お笑い係」だったが希望者一人で自信がなくなり断念。意欲を失い「簡単そうだから」という理由で「占い係」になるが、やってみると、朝のニュースをみるために早起きしたり、素早く書き写すためにメモ帳を準備したり、忙しい。できないと、皆がガックリ肩を落とす。皆から「楽しい」と好評になると、嫌がっていたのが、一変最後まで続けた。そのうち「5位まで発表して」と要望があり、母親まで巻き込んで活動した。3学期スタートから意欲であった。

児童による話し合いが活性化され活動も活発になり、活動に広がりが見られた。他の係の「よさ」を自分たちの活動に取り入れ活動に生かすことができた。活動場所も広がり、学級の仲間だけでなく、先生方や保護者も巻き込んだ活動が生まれた。検証前は、活動に消極的で創意工夫できないでいる児童も、検証後には、「新たな活動目標を見つけた」と答えた。検証後は、全員が「クラスのためになる活動目標」を立てることができた。めあてカードの内容から、児童のやる気や活動を創意工夫する様子が伝わってくる。このことから、活動を創意工夫し継続化・日常化できるような態度が育まれた。



図 18 創作絵本を読み聞かせる様子

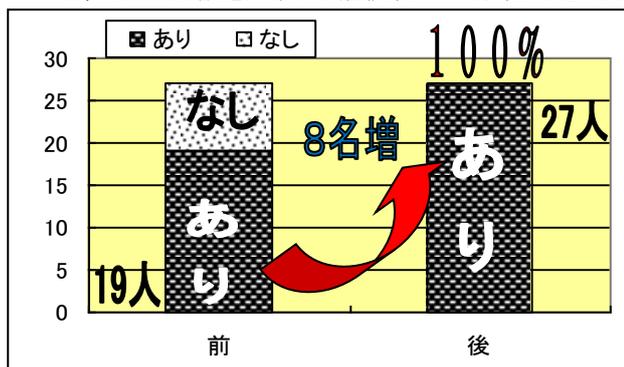


図 19 授業後に係の目標が立てられた児童数

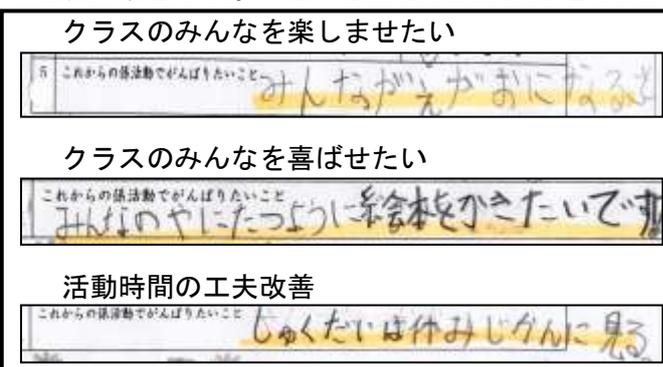


図 20 検証後のワークシートの記述

2 教師のファシリティブな関わりは、児童の自主的、実践的な態度の育成に有効であったか。

(1) 児童のアンケート結果による考察

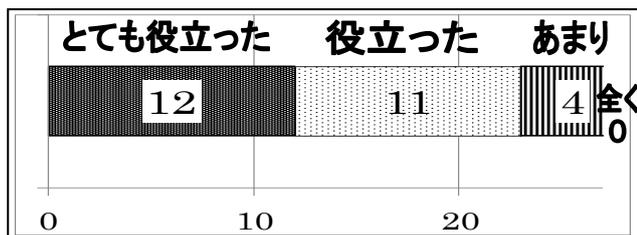


図 21 「係活動計画表は活動に役立ちましたか」



図 22 「話し合い盛り上げカードは役立ちましたか」

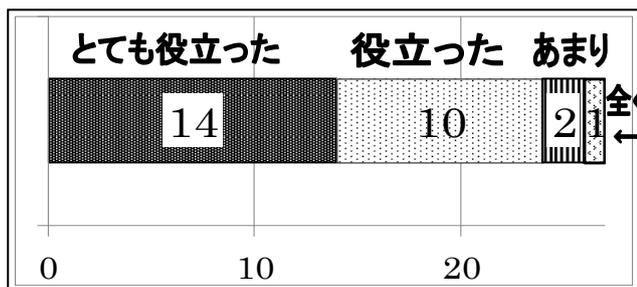


図 23 「アドバイスカードは活動に役立ちましたか」

「係活動計画表」は活動に役立ったかについて、図 21 のアンケートから 8 割の児童が役に立ったと答えている。その理由として、活動内容や役割、活動場所等を児童が、自己選択・自己決定でき、活動が創意工夫され新しく作り出されたためと考えられる。教師の支持なしで活動が促進され、改善されたことも成果と捉えられる。

「話し合い盛り上げカード」は活動に役立ったかについて、図 22 のアンケートから 8 割の児童が役に立ったと答えている。その理由として、児童が主体的に話し合う姿が見られ、話し合いによって、活動に創意工夫でき楽しく活動したことが考えられる。教師の支援なしでも児童だけで話し合いをまとめることができたことも成果と捉えられる。

児童が「アドバイスカード」を交換することは活動に役立ったかについて、図 23 のアンケートから約 9 割の児童が役に立ったと答えている。その理由として児童がアドバイスをもらい、より学級の仲間のために活動を創意工夫できたためと考えられる。活動時間を工夫したり、活動が学級以外にも広げられたことも成果と捉えられる。

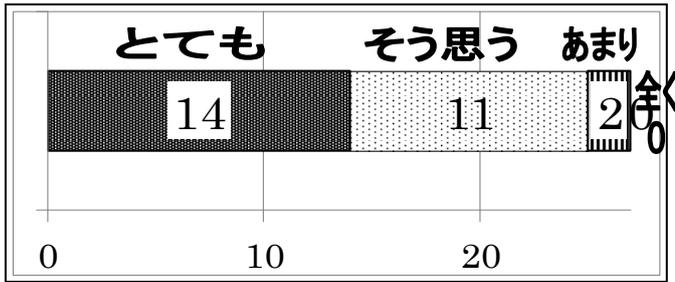


図 24 「係活動をしてクラスが仲良くなりましたか」

「係活動をしてクラスが仲良くなったか」について、図 24 のアンケートから 9 割の児童が仲よくなったと答えている。その理由として児童が楽しく活動できたり、困ったときに助け合うことができたためと考えられる。3 年生との交流を通して、児童のやりたい係や活動内容が大きく変わり、より仲間意識が高められた事も成果と捉えられる。

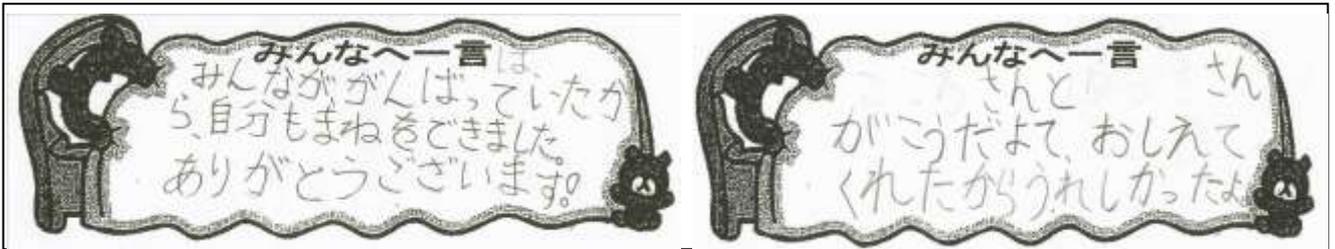


図 25 一年間の振り返りカードより

(2) 2 学期と 3 学期の係の種類による考察

2 学期と 3 学期の係活動の種類とを比較すると、児童の係活動に対する考え方の変容がはっきりと伝わる。表 5 から見られるように 2 学期は「うらない係」等「自分達にとって楽しいこと」を中心に係が編成されていた。

3 学期に入り、3 年生との交流後、児童は「あんなりたい」と憧れを抱き、より責任の持てる係活動に精選された。「楽しさ」から「役に立つか」がねらいとなり係が編成されたことから、児童がよりよい生活の向上を築くような態度が育成されたと考える。以下、児童の感想ノートから児童が自ら創意工夫して、活動を促進していった様子が伝わる。

～児童の感想ノートより～

表 9 2・3 学期の係の種類の変化

2 学期の係活動	3 学期の係活動
①うらない係 (なし)	①宿題調べ A
②こわい話係 (なし)	②宿題調べ B
③誕生日係	③警察 A
④掲示・イラスト係	④警察 B
⑤黒板メモ (なし)	⑤誕生日 A
⑥スポーツ (なし)	⑥誕生日 B
⑦オルガン	⑦掲示・イラスト係
⑧虫みつけ	⑧オルガン
	⑨カメの世話

みんなの役に立つ

廊下を走る人やけんかを止めたい

自分たちがやっていて楽しい活動

よりクラスのためになるような係活動へ

④ 仲よく助け合い活動を分担する姿が見られる

③ 創意工夫して活動をつくり出している

② 折り合いをつけて話し合いをまとめている

① クラスが仲よくなり、友達との関係が深まった

3 年生は、どうしてその活動を選んだのかな。質問してみよう。



図 26 3 年生との交流の様子

3 2つの手立てから総合して、児童がどのように変容したか。

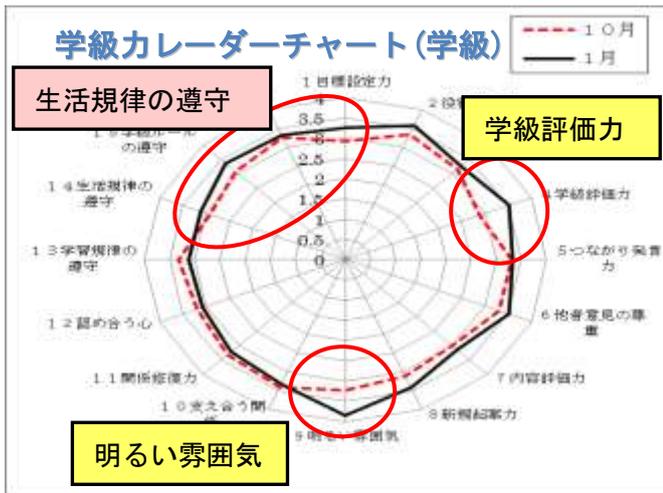


図 27 学級力アンケートの結果より

図 17 の学級力アンケートの結果から、検証前（点線）に比べ、検証後（実践）には学級力の伸びが見られる。とくに、「学級評価力」と「明るい雰囲気」に伸びが見られた。児童が自分たちで学級生活の課題を見つけ、よりよく改善する力がついたらと捉えられる。その理由に、係活動を行う中で生じた問題を、仲よく助け合うことで解決する経験を積み重ねてきたことが考えられる。その結果、学級が明るく楽しくなり、学級のルールを遵守する態度も育成されてきたことが伺える。図 28 の個人感想からは、活動を通して自分の目標を達成した喜びや今後の目標、学級で助け合う様子が記されており、児童のよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度が育成されたと考える。



図 28 係活動を振り返っての個人感想

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・児童が自分の係や活動内容を自己選択・自己決定できるような係活動を設定し、教師がファシリテーターに関わることによって、児童が主体的に活動し、活動を改善することができたり、継続して取り組んだりする態度が育まれ、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度が育成できた。(VI-1, 2)
- ・学級が明るい雰囲気となり、学級を大切にしようとする気持ちが育まれ、学級の生活規律を守ろうとする態度が育成された。(VI-3)

2 今後の課題

- ・低学年における係活動の年間計画と、評価規準の作成

〈 主な参考文献 〉

- | | | | |
|-----------|-----------------------------|--------|-------|
| 岩瀬 直樹・ちよん | せいこ著 『よくわかる学級ファシリテーション①②』 | 解放出版 | 2011年 |
| 大橋 邦吉 | 著 『学級が変わる！「クラスファシリテーション入門」』 | 明治図書出版 | 2010年 |
| 田中 博之 | 著 『学級力が育つワークショップ学習のすすめ』 | 金子書房 | 2010年 |
| 文部科学省 | 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 | 東洋館出版社 | 2008年 |